

# 07 PROJECT 飼料事業

## 高品質で安価な配合飼料で、生産性向上をサポート。

ホクレンでは、「生産者所得の向上」をめざし、最新の栄養水準を満たした配合飼料の供給と、飼料製造・物流の効率化を進め、コスト削減に注力。9割以上を海外から輸入している飼料原料を安定的かつ安価に仕入れるため、全農との連携による原料産地の多元化を図る一方、生産物とマッチングした国産原料の活用も推進しています。また、JA担当者と連携しながら組合員の生産性向上に役立つ情報提供に努めています。

### 優良製品の追求

組合員のみなさまの生産性向上をめざし、厳選した原料を使用しくみあい配合飼料を製造しております。道内自給粗飼料の豊富な分析データを活用するとともに、NRC2001 (米国国家研究会議の乳牛の飼養標準) などの最新の栄養レベルを満たした製品の開発をおこなっています。

### 安定供給の継続とコスト低減

配合飼料価格の抑制をめざし、従来の純バラ比率向上による流通コストの低減に加え、くみあい配合飼料工場の再編と他社飼料メーカーとの製造受委託および品目集約に取り組んでおります。

これからも、さらなるコスト低減と安定供給実現のため、とうもろこしなどの原料産地の多元化や、エタノール副産物であるDDGSや飼料用米などの採用を継続して実施します。

### 防疫体制の強化と品質管理の徹底

ホクレンくみあい飼料では、BSE発生を契機として制定された「新ガイドライン」への対応として、牛用飼料と鶏・豚用飼料を完全分離した製造体制を整えています。また、工場では家畜に害を与える病原物質が侵入することのないよう、敷地内の一般エリアから準規制エリアに入る車両は全て車両消毒装置で洗浄・消毒し、人の出入り口にも消毒液を配置。

さらに、全ての工場でISO9001および抗菌剤GMPガイドラインを取得し、品質管理の徹底に努めています。

### 営農コスト低減に向けた系統組織力の発揮

系統組織力をいかし、畜産農家の営農コスト低減を推進。全農衛生クリニックの活用による衛生管理の提案、ホクレンくみあい飼料(株)粗飼料分析センターの粗飼料分析結果にもとづく自給飼料主体の飼養管理体系の提案、畜産販売部門と連携した牛肉・豚肉のブランド化などに取り組んでいます。

また、訓子府実証農場での講習会を通して、JA飼料畜産担当者の知識・技術向上を図っています。

## RELATED FACILITY [関連施設]

### 訓子府実証農場(訓子府町)

乳牛320頭・肉用牛160頭を飼育し、配合飼料の開発、飼料作物の実証試験、飼養管理技術の研究など、生産現場にフィードバックできる研究テーマに取り組んでいます。

また、酪農ヘルパー養成や後継者の実践研修の場としても利用されています。



## PARTNER [パートナー]

### ホクレンくみあい飼料(株)

年間約85万トンの配合飼料を、道内3か所の工場で製造し、全道の組合員のみなさまへお届けしています。

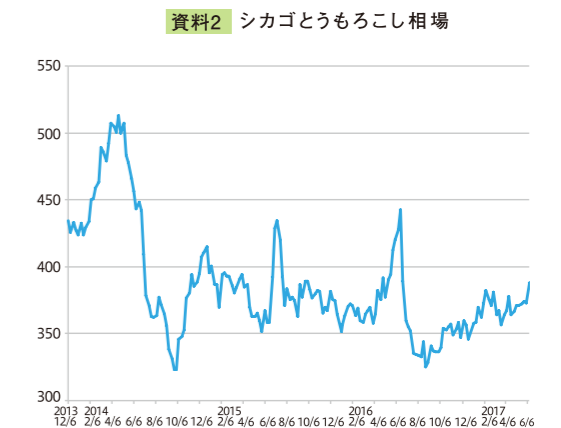
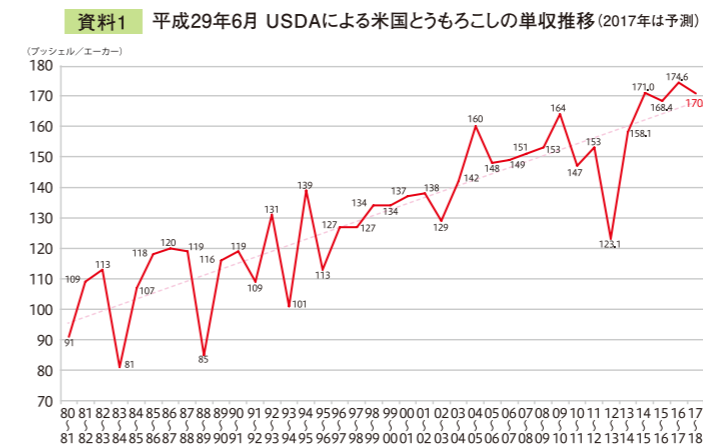
【工場】・釧路西港工場(釧路市)・苫小牧工場(苫小牧市)・十勝工場(士幌町)



## CLOSE UP [クローズアップ]

### 世界の穀物情勢について

2016年の飼料穀物価格は、米国とうもろこしが史上最高の単収(資料1)となったため、とうもろこしのシカゴ相場(資料2)は比較的低位に推移しました。



### 米国とうもろこしおよび大豆の需給動向

#### (1) とうもろこし

平成29年6月米国農務省(USDA)の発表によると、2017/18年度の米国作付面積は前年対比98%、単収は96%となるため、期末在庫率も前年を下回る見込みです。

#### (2) 大豆

平成29年6月米国農務省(USDA)の発表によると、2017/18年度の米国作付面積は前年対比107%となるものの、単収が92%と落ち込むため、期末在庫率は前年から微増に留まる見込みです。

### とうもろこしの輸入産地多元化の取り組み

配合飼料の主原料である「とうもろこし」について、系統では2015年度使用実績の70%が米国産でしたが、2016年度はさらに米国産比率が高まり82%となりました。これは、米国産とうもろこしが過去最高の収量を記録し価格優位性が増したためです。系統では価格優位性のある産地を弾力的に選択して使用しております。

